

令和3年度 利島村教育委員会
「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」に関する意見

帝京大学文学部心理学科
帝京大学大学院文学研究科臨床心理学専攻
講師 稲垣 綾子

利島村教育委員会が策定した全37項目の教育目標に対する自己評価は、A評価が30項目、B評価が6項目、C項目が1項目という結果でした。昨年度と比べますと、教育目標が3つ増え、C評価が1項目減少し、B評価は変わらず、A評価が4項目増加した結果となりました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策による行事等の中止ないし延期による活動自粛が大きく影響しC評価がつくことになりましたが、イレギュラーな事態だからこそ、教育目標にむけた体制を一層きめ細やかに吟味検討し、管理・執行してきた昨年度の取り組みを土台に、感染予防対策を施しながら利島の教育目標の達成を増やしてきた今年度の取り組みが窺えます。

以下、主な項目の自己評価およびその評価根拠について、簡単にコメントを述べさせていただきます。

1. 教育委員会の活動

昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症対策の対応について、子どもたちの健康と安全を第一に考えながら、前村長ならびに現村長とも変わらず、利島の今後の教育行政に関する密な意見交換がなされ、さらに新たな教育委員を迎え、学校教育・施設等についても協議がなされたとのこと、目の前の対応に追われるだけでなく、利島の教育の根幹に目を向けて活動されておられるようで、心強く思います。

また、文化財保護事業では、新型コロナウイルス感染状況を見極めながら、利島村伝統行事文化芸能行事（ふるさと利島に思いを寄せる日）を実施されたことも、利島の今と昔をつなぐ大事な日になったと存じます。古くからの歴史をもつ利島の営みを、素敵な椿の冊子のなかにまとめられたことも意義深いですね。こんなに沢山の歌が利島にはあるのだ、と驚いていると、冊子後半の1984年の利島の行事カレンダーには、村民が協力し合いながら日常を支えている様子が描かれており、前半にまとめられた沢山の歌は、利島の生活のなかで自ずと生まれてきたものだったことを感じさせてくれます。はしけの写真は、まさに島民の“生きる力とつなぐ力”を感じさせてくれるものですね。利島の人とのつながりの原点を感じます。

2. 教育委員会が管理・執行する事務

村財政が厳しい状況であるなか、教育の質を落とすことのないよう予算要望を行い、教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られているとのこと、これからの担う子どもたちの基盤づくりに価値をおく、利島の教育が今年度も大切にされていることが窺えます。

さらに、1.の村長との丁寧な連携のもと、村の方針である子育てしやすい環境づくり

の観点から家庭の教育費負担軽減に努めていることと併せ、離島高校生就学支援事業では子どもたちやご家庭の実情に即した支給額の増額、支給期間の変更（3年から在学期間中）を継続させておられること、子どもの教育を受ける機会の権利擁護を死守しておられることは評価に値するものと存じます。

3. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

今年度も、利島村教育大綱に則り、教育目標は学校の児童・生徒のみならず、島民全体の人としてあるべき姿を想定して制定し施策を進めているとのこと、伝統文化行事やふるさと学習をはじめ、“村全体で子どもの面倒をみる”という利島の慣習を大事に管理・執行に従事されていることが随所に窺えます。

昨年度と引き続き、(3) 社会性を育む教育の推進が B 評価、(4) 児童・生徒の他地区との交流が C 評価のままでした。これも新型コロナウイルス感染症対策によるものであり、修学旅行、中学生海外ホームステイ事業、多摩島しょ子ども体験塾や檜原村の小中学生との交流等の実施について中止または延期して実施したことが影響しているようです。劇団四季の観劇や東芝未来科学館、NHK スタジオパーク、東京スカイツリーの見学等を具体的に計画していた中、非常に残念でしたね。

一方、1月4～7日には利島村スキー教室が白馬村で開催され、子どもたちが雪山で身体を動かしスキーを楽しめたとのこと。先生や仲間たちとともに島から離れ、思い出深い時間が過ごせたでしょうね。

4. 学校教育

昨年度より2項目増えた15項目すべてが A 評価でした。今年度は小中学校への訪問が叶わなかったのですが、引き続き、きめ細やかな教育活動が行われている様子が伝わってきます。

今年度は、(14) GIGA スクール構想実現への取り組みについての成果と課題、(15) 新型コロナウイルス感染症感染予防対策への取り組み、の2項目が追加されていました。

(15) の感染予防対策の取り組みは昨年度より実施されてきたものですが、実態が掴みきれていない新型コロナウイルス感染症への対策は引き続き徹底しておられるようです。

(14) の GIGA スクール構想の実現は、新型コロナウイルス感染症対策で一気に進んだようですね。全児童生徒、教職員に一人一台のクロームブックが配布され、ICT 支援員による研修で10月末には子どもたちが主要ソフトの基本操作をこなすようになったとのこと、子どもたちの吸収力に驚かされます。7月の学校だよりでは、教育活動の一つである「月一（つきいち）発表会」で、小学4年生の4人が校外学習ではしけのエコセンターと清掃工場で学んだ内容を、自分たちでクロームブックのスライドを作って写真等も示しながら、何も見ずにハッキリと発表する様子が紹介されていました。いわゆる「カンペ」を見ずに堂々と発表できるということは、学んできたことが子どもたちの中に血肉となって生きていることを表していると思います。遊び感覚で ICT を使いこなすだけでなく、学びや体験をよりリアルに他者に伝えていくためのコミュニケーションツールとして ICT を活用できる力が、小学4年生にして身につけていることが素晴らしいと思いました。

また、江東区の小学校や、国際理解教育でグアテマラの方とのリモート交流が実施さ

れ、今まではできなかった経験が容易にできているとのこと、コロナ渦がもたらした新たなコミュニケーションチャンネルと思います。これは、(11) 教員の資質・能力向上のための研修活動にて講師が来島できない場合にも、リモートでその機会を維持することに役立っているようです。着岸が難しいことの多い利島では、今後もますます活用される媒体となりそうですね。

(4) 健康の保持・体力の増進を図る教育活動では、投力向上の取組で小学生は8割以上が記録を伸ばし、中学生はほぼ全員が同じ記録もしくは更新、さらに、ロードレース大会では中3男子4名、女子1名が校内記録を更新したとのこと。全国的にはこのコロナ渦による行動制限等により体力が全体的に落ち込んでいる中、利島小中学校の独自の取組や工夫で子どもたちの体力維持向上が図られている様子が伝わってきます。まさに、教育目標にある「元気にたくましく生きる人」の育みに通じますね。ロードレースは例年のように一般の方の参加は叶わなかったようですが、終了後にはPTAの皆様から豚汁がふるまわれたり、車両の配慮をしていただいたり、沿道での声援があったりと、地域の方との交流の中で行われたことも貴重だったと存じます。(8) 故郷教育の推進で、村長自身の利島での小中学校時代の話をお聴きしたことも、今と昔のつながりとこれからを感じる時間となったと思います。

(12) 学力向上を図るための方策と成果では、国の学力調査で都の平均正答率よりも、小6の国語が11%、算数が12%高く、中3の国語が2%、数学が7%高かったとのこと。日頃より、教職員の先生方が授業研究や基礎学力定着を図るための取組を、目の前の子どもたち、そして、中学卒業後に島を離れて暮らす子どもたちの今後を見据え、心を尽くして指導にあたっておられる日々の結果と存じます。これはまさに、教育目標の「よく考え進んで学ぶ人」ですね。これを先生方が子どもたちの傍らで体現しているからこそ、子どもたちはそれを肌身で感じて、自ずとよく考え、進んで学び、生きるための基礎学力を身につけていっているのだろうと思います。

(2) 個に応じた教育については、今年度から「みやつかルーム」＝特別支援教室が設置されたことも記載されるとよいと思いました。利島ではすでに“個別最適な学び”に取り組んできたと思うのですが、改めて「特別支援教室ってなに？」と子どもの教育施策について国が取り組んでいることを、学校だよりで子どもや保護者にわかりやすく伝えておられることが、時世をふくめて子どもの育ちに必要なものを整え発信していく、質の高い教育の実現を感じさせます。そして、ネーミングがなんとも素敵です。宮塚山に見守られている利島の子どもたちを、より丁寧に、器を大きく、包み込む教育、というイメージが沸いてまいります。「自分と向き合い、分からないことや困ったことを、相談したり話を聞いてもらったりしながら、自分の良さを知る場所なのです」との紹介文が、「思いやりある心豊かな人」を育ててきた利島小中学校ならではの特別支援教室と感じました。

5. 社会教育

昨年度は(1) 芸術文化事業の実施はC評価で、今年度も東京都交響楽団員による弦楽四重奏の演奏会が中止を余儀なくされたようですが、B評価にあがっています。小さな単位で「利島の自然を撮る会」が行われたり、大石山遺跡保存整備事業の終了を記念して完成セレモニーが実施されたりと、新型コロナウイルス感染症対策を施しながら芸術文化に

触れる教育機会を設けることができた意義は大きいと感じます。大石山遺跡では、中学生が「利島の遺跡について学ぶ会」等を行ったとのこと、島が刻んできた年輪に触れる貴重な機会になったと存じます。(3) 文化財保護の充実に記載されているように、この大石山遺跡がさらに子どもたちの故郷教育に活用され、子どもたちの誇りになっていくといいですね。

今回は、あらためて、利島の教育目標の「自立」が随所に息づいていることを実感いたしました。1月の学校だよりの高橋校長先生のお話によると、平成22年の学習指導要領改訂の際に「島しょの学校として『自立』の部分については変更しない」として、利島の多くの子どもたちが島を離れる「十五の春」にむけて、自立の内容吟味を図ったこと、その結果「体・徳・知」から「知・徳・体」の順番に変更し、これらをバランスよく、小中学校の9年間で育てていく教育方針がより盤石なものになっていたことを感じ入りました。利島の教育行政の力強さは、やはり子どものことを考える教育者の役割に尽きるのでは、と感じます。五島横断トップリーダー通信にありました教育長のお言葉にも、「子どもたち一人一人をよく面倒見、かわいがり、歩ませる」にその神髓が表されているとお見受けいたしました。

以上